

もみじの丘小学校及びもみじの森小学校に勤務する教員への調査（参考）

〔目的〕

児童やその保護者の方々とは違う、教員という立場から、どういったことを感じ、新しい学校でどのように臨んでいるかといった点などを確認するため、自由記載という形式で調査を行った。児童及びその保護者の方々へ行ったアンケートとは目的が異なるが、参考として掲載する。

設問 統合校として開校してから1年が経とうとしていますが、旧もみじ台4小学校当時や開校当初に比べ、児童の様子がどのように変わったかを確認させていただきたいと思います。

「例」のような観点から良い点、課題と思われる点をお答えください。

例：統合校への慣れ、友人関係、授業や行事での態度など

分類	内容
友人関係・生活面について	・友達が増え、学校にも慣れ、楽しんでいる。交友関係が広がったことで、放課後遊びも充実したようだ。ただ遊びたい友達の家が遠いなどの声はよく聞こえてくる。 ・ほとんど単級の小さな学校から、人数も倍になり、人間関係も変わり、またそれぞれの学校でルールも異なっていたことから、開校ははじめのころはトラブルも多かった。行事での態度も開校式や入学式などの始めの行事では、どの学年も指示が通りにくい、集団としてまとまらない等の落ち着かない様子が見られた。時間が経つにつれて子どもたちの生活や人間関係も落ちつき、学習の中でも行事に取り組む際の態度も良くなってきた。「新しい学校」という意識も芽生えた。 ・統合からくる特別な違和感はなかった。新鮮さの様な感じさえしていた。 ・学校へは慣れている。自分たちの学校であるという意識も育っている。人間関係もリセットでき、よい効果があったように感じる。 ・当初は、お互いにどんな人なのかを探り合いながら、時にはけんかすることもあったが、その度にお互いの気持ちを伝えたり、受け入れたりすることを繰り返し指導してきた。新しい友達と出会い、時に気持ちがうまく伝わらないことがあっても、相手に伝えたり、相手を受け入れたりすることができるようになってきたことは、児童にとって大きな力となったと思う。 ・開校式の時の児童の様子はとても大変であったが、一年間、多くの教職員で細やかにかかわった結果、ずいぶんと落ち着いてきた。子どもたちは友達が増え、とても喜んでいる。地域も広がり、プラスにとらえている。 ・一学期は「前の学校はこうだったから」という声をよく聞いたが、だんだんと新しい学校のルールが定着してくるにつれ、そのような声を聞かなくなった。ルールの理由などをみんなで考えたりしたことで、自分達で考えて行動できるようになってきた。 ・4月の段階では、昨年度同じ学校だった子ども同士でかたまるなど、慣れない雰囲気が多く見られたが、今ではとけこみ、温かい雰囲気になってきた。授業や行事での態度についても良い方向へ変わってきているように感じる。

学習面について	・学校体制が変わったことにより、新学習指導要領に沿った教育課程への移行がスムーズにできた。よって、授業に取り組む姿や学び方、態度など学びの基本を見直すことができた。 ・始めは母体校同士で集まることが多かった子どもたちだが、色々な活動を通じて自然に交友の輪を広げていった。授業や行事では集中する時間が長くなってきたと思う。 ・どの子も統合校になじみ、意欲的に学習に取り組み、活気ある学校生活をすごしている。校長の経営方針を教職員一人一人が受けとめ、一人一人の子どもの思いをうけとめ、活躍の場をいろいろな場に設定し、集団の中での表現力を伸ばすと共に自信をつけている。入場や退場など、直接見られる場面でなくても落ちついて整然と集団行動ができる力をいっそう伸ばしていくと、行動、態度に気品があふれてくると思う。
指導・学校運営等について	・全校行事での態度から指導の一貫性を感じる。各担任によって大事にする所がバラバラではなく、「〇〇〇な子どもの姿にしよう」という一つの方針があり、指導もしやすい。 ・母体校3校のうち、1校の出身者が大多数であるため、児童の雰囲気は大きく変わることがなかったように思う。今回の統合は、吸収合併ではなく、母体校3校が同じ立場での統合し、新設校を開校するということから、それぞれの学校の色を払拭し、全く新しい形での新設校の開校を目指して、学校づくりを始めた。そのことで、一部保護者の中には、「旧〇〇小のように・・・」という思いも聞かされたが、母体校3校の色を消して、「全く新しい学校をつくる」という方向性は、教職員はもちろん児童にもよい刺激を与えたと思う。新設校となり、教師の構成や指導力に寄るところが大きいですが、授業や行事に向かう児童の態度も、見違えるほどよくなってきている。 ・落ち着いた状態で開校式を迎えスタートしたが、子どもたちの成長を感じるようになった。何よりも全校朝会等でのざわつきがほとんどなくなった。今までの指導の賜物だと思う。 ・開校当初から共通のスローガンを掲げ、子どもたちにわかりやすく指導を進めてきたので、大きくブレることもなく指導を行うことができたと感じている。それぞれが学校で身に付けてきたことをゼロにして、1からスタートすることになったこともあるが、新しくなった学校で新しい伝統を作ろうという意識を持たせて指導をしてきたので、子どもたちも開校当初より、かなり落ち着いて行動することができるようになったように思う。あいさつについては、3学期でずいぶん良くなった。儀式での参加態度や学習に向けての真剣な態度もすばらしく良くなった。 ・教職員の一体感のある指導により、子どもたちが目標をもって物事に取り組もうとする姿が見られるようになった。他にも、表情が穏やかになった、力を合わせる、集団への意識が高まったように感じるほか、保護者が信頼してくださるようになった。

設問 新設校として、開校当初から様々な負担があったことと思いますが、具体的にどのような負担や課題があり、それにどのように対応したかを確認させていただきたいと思います。「例」のような観点から、課題と思われる点、また課題に対する対応方法などをお答えください。

例：開校にあたっての事務負担、新設校としての意識付け、保護者対応、地域との連携、通学安全の指導など

分類	内容
事務負担について	・ 事務負担については、開校事務と旧学校の事務処理を行う中で、新設校の準備を同時に進めていくことに大変苦労した。既存校舎を活用しての統合だったため、新しい学校という意識付けが弱かった。 ・ 2月から開校事務と閉校事務、学級の事務などが重なり負担が大きかった。開校してからも1学期間は落ち着かない状態だった。子どもたちの様子が落ちついてくると、少し見通しをもつことができてきた。 ・ 行事等すべてが何もないところからのスタートで前年案もないので、ゼロからの積み重ねをしていかななくてはいけず大変だった。 ・ 年間計画を立てていくことの面白さと難しさを感じた。 ・ 開校当初のため、これらのことを打ち合わせ、創り上げていくことは当然だと思っていた。したがって、何ら負担や課題だとは思わない。むしろ楽しみだった。 ・ 学校行事や児童活動、研究などについて、全てがゼロからのスタートだったため、創り上げていく楽しさや充実感もあるが、仕事量も多くなったり、時間がかかったりした所が負担であったし、それをどう改善していくかが課題だと考えている。 ・ 通学指導も範囲が広くなり、負担は大きい。

学校運営について	・「型」がないので何をするにしてもスタッフと共通理解、意識のすり合わせが必要となり、労力的にも時間的にも大変だった。 ・新設校の様々なルールづくりを全職員で納得するまで話し合った。 ・学校長の示す学校教育目標は明確であり、教職員がその具現化に向けて、新たな学校作りをスタートした1年であった。そのため、授業研究の充実、文科省の教育課程研究校指定を受け、教職員の研鑽も盛んであった。児童の安全・安心に関わる活動では、校務分掌上に生徒指導部、地域渉外部を設置し、関係団体との連携を強化し、とてもよく機能した。 ・統合前は通学路だった道が、統合して通学路ではなくなった場所があり、わからずに通っていた児童がいた。交通安全指導で児童を見守ったり、児童に繰り返し指導したりした。 ・新設校としてがんばろうという教師の理想が現状とそぐわず、子どもに寄り添う活動というよりは、させている感が強く、子どもをよく見ることができていない感じがした。 ・地域の方とともに学べる学習や行事を意図的につくり出し、地域の方々と学校の距離を縮めることができた。 ・子どもたちのことも考えるとゼロからのスタートで、校長、教頭以外の教職員は一新した組織体であることが望ましいと思う。
保護者対応について	・旧4校からの保護者は、それぞれの学校での取組ややり方にこだわっている方も多数いたようだ。母体校の人数が多すぎると新設校を創っていかうとする意識より、吸収合併されている意識の方がどうしても強くなってしまい、チームとしての意識を高めるのに大きな障害になっていたように感じる。保護者にもこのような気持ちを抱かせないためにも、できる限り新しいメンバーで構成した方が余計な反発が起きないと思う。本校では学校評価で浮かびあがってきたこのような保護者の不安を、時間はかかっているが、学校からの便り、懇談会での話、掲示物でのお知らせや個別の対応によって解消することが少しずつできていると思う。 ・統合したことで、統合前の学校でのルール（校外生活のきまり等）がそれぞれ違っているところに、混乱する保護者がいた。学校便りや懇談などで周知した。（子どもにもその都度伝えたり指導したりした。） ・保護者も子どもと同じように様子見なところがあった。初めのころは「元〇〇小の子たちは」「だから元△△小の子は」など言う姿が多かった。でもクラスは1つを目指していること、「元〇〇小」というのは教師自身思っていないし、子どもも1つを目指してがんばっているところだと伝えた。夏にはもう聞かなくなった。 ・校区が広がり、保護者同士がやり取りできずに、児童の動きを把握できないことがあった。

設問 その他、学校規模適正化推進事業でご意見などありましたら、ご自由にお書きください。

分類	内容
良い点	・とてもやりがいのある仕事だと感じた。やる気にあふれた若い先生が多く、大変貴重な研鑽の場となり、感謝している。 ・統合することでのメリットは大きかったと思う。子どもたちの声からも、学習、生活、行事の面でよいことが多いことを感じる。 ・児童数のことを考えると、もみじ台地区は2校で良かったと思う。 ・新しい学校を誕生させ、歩調を合わせながら、この1年教育活動を進めてきた。基本計画案を実施しながら、それが子どもにとってどうなのか全職員で話し合い、絶えずきめ細かに見直しながら実践を確かなものにしていった。
改善すべき点等	・開校と校舎の工事が重なっていたために、行事や活動を予定しにくい面があった。時期をずらしてもらえると良い。 ・統合が予定されている学校は、その数年前からそれを見越した教職員人事をすべきである。そして閉校の年には、そのほとんどを（半数でも）新設校メンバーとし、閉校業務と併せて開校に向けての計画を進められるようにすべきである。そうすることで、よりスムーズに開校初年度を迎えられる。 ・新設校だからいろいろチャレンジしようということと時数の制限とで、難しい面があった。 ・既存校舎を活用するので、せめて教具等の一新くらいの措置は必要だと思う。